
キス：BL、獄受け、微裏

星雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キス：BL、獄受け、微裏

【Nコード】

N0641G

【作者名】

星雲

【あらすじ】

獄寺が好きな山本視点。少しツナ獄もありそおな予感。獄受け小説。

山本の思い（前書き）

家庭教師ヒットマンREBORN！

山獄小説。

B L 苦手な人、獄受けが無理な人は逃げて下さい。

山本の思い

今は放課後、教室…俺とツナと獄寺で勉強してるとこ…。

初めに3人で勉強会をしようと言ったのはツナだった…。

「いいつすね！勉強会！塚この野球馬鹿はほつといて2人でやりましょう！！」

「おいおいヒデーな獄寺…！」

「うるせえ！てめえは1人で

「まあまあ皆でやろうよ！ねっ？獄寺くん！」

「　　っ！さすが十代目！御心が広い！」

そお言つて獄寺は目を輝かせてる。正直ムカつく…。

俺は獄寺が好きだ…最初にそれに気付いたのは、ほんの1ヶ月前…
獄寺が俺んちに来た時…

なんつーか…風呂あがりがめちゃくちゃ色っぽくてゾクゾクした。
肌すげえ白いし…この肌にキスマークとかつけたらどおなるんだろ
うとか考えてた…

あーやべえ妄想してたら勃ちそお…。

そんなこんなで嫉妬心めらめらで勉強会に参加した俺…。

思った通り獄寺はツナばかり見ている…。

イライラ…。

「なあ〜獄寺あ〜俺ここ分かんねえ〜…。」

「知るか！自分で考えやがれ！」

やっぱり…。

獄寺は勉強中も色っぽい…髪を後ろに束ねて、眼鏡かけて…

キス…してえ…。

山本の思い（後書き）

読んでくださった方ありがとうございます。（ ）（ ）

誤字は気にしないで頂けるとありがたいです

ツナの思い（前書き）

ツナ獄です。

ツナの思い

最近の山本の様子がおかしい。明らかに他の人とは違う感情で獄寺くんを見てる。

もしかして山本も獄寺くんを…

「わりい、ちよつとトイレ…」

そお言つて山本は教室を出て行つた。
多分ここに居るのが辛くて堪らないのだろう…。

ごめん山本…でも俺…

「あいつがいると邪魔でしょうがないっすね！」

獄寺くんあんなこと言ってるよ……。

そして20分……

遅い、遅すぎる…。

多分外に行つたんだらう…。

窓を除くと……

やっぱり…いた。

山本はグラウンドのサッカーゴールの所で座ってた…。

なんだか見てて切なくなるような感じだった…。

「野球馬鹿…遅すぎませんか？」

！！！！？

獄寺くんが山本の心配してる！まあホントは優しい人だしな…獄寺くんは…。

「俺捜してきますね？」

！

ぐいっつっ！！

「うわっ」

ドンッ！！

俺は獄寺くんのセーターを引っ張った。

その衝撃で獄寺くんは床に倒れてしまった。

「あ、っごめん！！」

ああ俺なにやってんだろ…。

獄寺くんは本気で山本を嫌ってると思って勝手に安心してたから急にそれが崩れて動揺したんだ…

でも……………

トメラレナイ

「んう…っ!」

俺は獄寺くんにキスした。

噛み付くような甘く激しいキス

「ふ、んん…んあっ」

獄寺くん凄く苦しそう…。

でも俺が十代目だから抵抗できないんだよね…。

ほら君は俺の手首をつかむだけ…。

俺、性格悪いなあ…。

でもこんな君だからイジメたくなる。

ツナの思い（後書き）

無理いいい！

自分どんだけ文章かくの下手なんだ！！！！！

ツナの危険な思い（前書き）

微裏ですごく注意を…。

ツナの危険な思い

俺は獄寺くんに角度変えたりしながらキスをした。

とまらない

獄寺くんのセーターの下から手を入れた

「んっ!!!?!」

胸の小さな2つの突起を爪でつまんだり指で押し潰したり…そのたびに獄寺くんはピクンと跳ねる。

ホント可愛い…敏感体質なんだな…獄寺くんって。

唇を離して舌で突起を舐める

「ひあっ!んあ…じゅ、だい…めえ、ああ…ふあ…ん」

可愛い…

これ見てるだけでイっちゃいそお……………

すでに勃ってるソレをズボンの上から優しく指でなぞる

「ああっじゅうだい、め…だ、めで、すう…んんあ…あんっ」
「獄寺くんっていい声で鳴くんだね…可愛いよ…」

そしてソレをズボンからだしてしゃぶる…

「ああああ…んっだめえっはあん…じゅうらいめえあんっ！ふあ…
…き、きたない、ですからあ…あ、ん」

「ひはなふなひよ…？」

「あああ喋っちや、んあん、あああん……イっちやう…はな、し
て、くださあいんんっ」

「ひひよ…ひって」

「あああああんふああんっ」

「ぐぐぐぐ」

「ああああ！やだあっ…山、もとお…あん」

「っ」

そう獄寺くん…山本が好きだったんだね…。

それから、俺は獄寺くんを解放してやるとなんだか申し訳ないような感じに

「すいません…ちょっと手洗ってきます。」とか言っただけで教室を出て行った…。

君の手は汚れてないじゃないか…。

はあ…俺は、なにやってんだか…。

嫌われたな。

キス（前書き）

なんかツナが悪い人みたいに…山獄です。

キス

そろそろ行くか…ずっとここで現実逃避してたって仕方ないし…。

スツと立ち上がった瞬間だった

ガバツツツ!

!!!!!!!!!!!!!!!!!!??

誰かが背中から抱き着いてきた…誰だ…女子だよな…なんかすげえ
タイミング悪い…。

が、前に回された手を見るとシルバーアクセが大量についている、
そして右手の中指には嵐のリングが…

っ!!!!??

ゴゴゴゴゴゴくでら!?

一瞬にして顔が真っ赤になったのがわかる

なんでだ!??

……………泣いてる???

獄寺が泣くほどって……

「ツナ…?」

ビクツツツ!!!!

思った事を声にだしちまった…しかもそれに獄寺は異常なくらい反応した

やっぱり…

ツナになにかされたんだな…

俺は獄寺の方を振り返った

思った通り泣いてる

しかも泣き顔で上目で俺を見上げている

っ！

可愛い…

俺は獄寺を優しく抱きしめた

獄寺も俺の背中に手を回してくれた…

それから俺達は教室にもどった

獄寺は嫌だと言ったけど、こんな獄寺を1人にしてはいけないし、ツナに何したのかも問い詰めたい

ガラッッ

「よっ！ツナわりいな…待たせちまって」

「別にいいよ…」

獄寺は俺の後ろに隠れてる

「あ、山本と獄寺くん…」

「ん？」

「おめでとっ…」

？

なにが？獄寺も頭の上にクエスチョンマークが見えるくらいに不思議そうな顔をしてる…

可愛い…

「2人とも付き合うことにしたんじゃないの？さっき抱き合ってたよね？」

…見てたんだ…。

「凄く嬉しいよ…俺の努力が実った感じ」

！？

「じゃあ十代目は俺が山本こと好きだと知ってたから、あえてあんなことしたんですか！？」

「そおだよ？ほかに理由なんてないでしょ？」

「　　っ！さすが十代目！」

また獄寺の目が輝やいた…

獄寺は気付いてないのな…

ツナ、なんか悔しそうな黒いオーラがでてる気がする…

まあ今はこう言っといたほうがいいかもな…

そして俺は獄寺にそっとキスをした。

END

キス（後書き）

キス最後まで読んでくださった方ありがとうございます。

なんか話が早すぎた気がします（*―*）

ツナさんもなんだか腹黒い人になっちゃって…。

自分、多分ピュアなツナさん書けない気がします。

初めて微裏書いて恥ずかしかった…しかも下手ですし。何度この小説を消去しようとしたか…まあ連載だったんで消さなかったんですけど…

兎に角、消さず無事終了できたのでよかったです（*^ ^*）
4話しかないけど（笑

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0641g/>

キス：BL、獄受け、微裏

2010年10月14日01時47分発行